

野菜の展望

今月は梅雨の曇雨天など今後の天候によっての影響も懸念されますが、高冷地・東北・北海道産地はともに初期の生育は良好であり、概ね安定した入荷が期待され、いまのところは入荷量も平年並みに推移する見込みですが、土物類の馬鈴薯・玉葱については春先の天候不順の影響を受け、平年を下回る入荷見込みです。

葉茎野菜類のレタスは、長野産（南佐久地区）が主力の入荷となります。ブロッコリーは上旬で石川産が終了し、北海道産主力に長野産が出回る見込みです。アスパラガスは長崎・福岡・長野産が中心となり、夏芽への切り替えも進み潤沢な入荷が見込まれます。キャベツについては千葉産が上旬、石川産が中旬で終了となりますが、長野・群馬産が主体となって順調な入荷が見込まれます。白菜は長野産中心の入荷です。ほうれん草は岐阜（飛騨地区）中心に群馬産の入荷となります。葱は関東地区の茨城産主体の入荷で、石川・九州地区からは束物の入荷を予定しています。

果菜類の胡瓜は石川・福島・長野・山形産の入荷で、石川産ハウス物については上旬にて終了となります。南瓜は鹿児島産が上旬で終了し、石川産中心の入荷に移行しますが、震災の影響で能登方面からの入荷は大きく減少します。茄子は石川・茨城・群馬・山形・高知・福岡産の入荷があり、高知・福岡産は上旬にて終了となります。トマトは上・中旬が石川・愛知産主力で、中旬からは岐阜産の入荷があります。ピーマンは上旬が高知産主力で、中・下旬は長野産を中心とした夏秋産地へと移行していきます。とうもろこしは愛知・山梨産から石川産、関東産、長野産へと徐々に産地が移行した入荷を予定しています。

季節商材の梅については、和歌山産が終了して石川産中心の入荷となりますが、作柄不良から入荷量は平年を下回る見込みです。赤じそは石川産中心に和歌山・愛知・群馬産の出回りとなります。

根菜類の大根は岐阜・北海道産の入荷を予定しています。人参については青森産主力の入荷となります。北海道産は早ければ月末頃から入荷する見込みです。甘藷は茨城・千葉産、上旬から静岡産も加わります。

菌茸類の椎茸は石川産菌床物中心に長野・富山・兵庫・徳島産も加わり、平年並みの入荷が見込まれます。なめこ・えのき・しめじ等のきのこ類は各産地ともに減産傾向となりますが集荷に努めます。まつたけは例年通り中国産の入荷が予定されています。

土物類の馬鈴薯は長崎産の残量と府県産の入荷となります。石川産は能登半島地震の影響が大きく、極端に少ない見込みです。中旬頃より青森産他の入荷を見込んでいます。玉葱は兵庫産主体に各府県産の入荷です。各産地共に作柄不良気味で平年を下回る入荷量を見込んでいます。牛蒡は群馬産の入荷です。囲生姜・新生姜共に高知産に加え和歌山産の新生姜の入荷見込みです。

7月は七夕、海の日、新盆、土用の丑、また、夏休みを迎える時期となります。これらの多彩なイベントに向けて企画立案の上、拡販にご協力いただきたくお願い申し上げます。

《野菜第二部部長 嶋田 亮》

果実の展望

いよいよ夏果実の本格的な出荷期を迎え、石川産果実もスイカ・ブドウ・モモを中心に入荷を見込みます。

温室みかんは愛知蒲郡・佐賀唐津・福岡みなみ筑後からの入荷があり、順調な入荷が見込まれます。

西瓜は石川産が本格的な出荷時期となり、中旬にピークを迎えることが予想されます。JA 金沢市は露地物が上旬からの出回りで、能登の JA 志賀も加わってきます。小玉西瓜については JA 金沢市が下旬にて販売終了となる見込みです。

桃については山梨産中心の入荷で平年並みの出荷となっており、白鳳を中心に順調な入荷が予想されます。石川産の白鳳は中旬頃からの出荷予定となっております。

ぶどう類は石川産（金沢・高松・志雄地区）のデラウェアが上旬より出荷最盛期を迎えて順調入荷となります。また、中旬以降からは種なし巨峰の販売がスタートとなる予定です。岡山からは大粒系のシャインマスカット・Gピオーネ、山梨・長野等からは巨峰が入荷いたします。ルビーロマンの初入荷は中旬頃の予定となっております。

瓜類についてはアールスメロンが静岡産の入荷となります。作付面積は減少しており、入荷も少なめと予想されます。北海道から夕張メロンに引き続き、上旬よりらいでんメロンの入荷が始まり、山形産アンデスメロン・赤肉メロンも入ります。石川産は、JA 金沢市の石川アールスの入荷が予定されています。

プラムは山梨産のソルダム・貴陽中心に、和歌山産のサンタローザ・ソルダム、上旬過ぎから長野・山形産の大石・サンタローザ、石川産の大石・ソルダム等の入荷が予定されています。

輸入果実のフィリピン産バナナの入荷量は大幅に減少の見込みです。南米産も入荷の減少が見込まれます。価格は例年よりも高値の推移となります。オレンジはオーストラリア産ネーブル種の本格的な出荷となります。グレープフルーツは南アフリカ産主体でスタールビー中心の入荷で、少量ですがホワイト種の入荷も見込まれます。レモンについてはチリ産へ産地移行し、小玉中心の入荷が見込まれます。アメリカンチェリーはワシントン州及びオレゴン州産（品種はビング種）からの入荷で、数量減・単価高が予想されます。キウイフルーツはニュージーランド産の安定した入荷が予想されます。その他、フィリピン産パイン（ゴールデン・スィーティオ）、台湾・メキシコ産マンゴー、ベトナム産ライチなどの入荷があります。

今月も何卒宜しくご拡販の程お願い申し上げます。

《果実部部長 荒木 智》